

麻 酔 科

文責:吉田 光剛

概 要 (2020年4月～2021年3月)

常勤医 (6名)

鴛淵孝雄

(山口大学 1974年卒、1981年1月より勤務)

大城研司

(山口大学 1985年卒、1990年1月より勤務)

河田竜一

(山口大学 1989年卒、2006年11月より勤務)

2020年9月まで科長

平山かおり

(弘前大学 1993年卒、2005年12月より勤務)

吉田光剛

(山口大学 1997年卒、2013年4月より勤務)

2020年10月から科長

彼末行世

(山口大学 2011年卒、2016年4月より勤務)

非常勤医

週に数回、山口大学からの応援を依頼した。

飯尾知明、丸花翔一郎、棟久晃司、小林千華、
森亜希、得津佳道 (敬称略)

臨床研修医

藤原槇凜子、中川碧、足立夏実、森田可那子、
渡邊倫哉、古川昌宏、作田美穂、末広晴美、
専徳健太、日下部太郎、和田隼輔 (敬称略)

診 療

2020年度は、COVID19の流行が手術症例数に与える影響が懸念されたが、麻酔科管理手術症例は3207例で、例年とほぼ変わらない症例数であった。かなり忙しい日々を過ごすことも珍しくない中、手術室看護師とも協力しながら、少しでも効率よく手術室運営ができるように日々工夫している。緊急

手術の申込も多いが、できる限りの工夫をして速やかに対応するように心がけている。

診療科別症例数では大きな変化はなかった。麻酔法では内視鏡手術、術後抗凝固療法の影響でエコーガイド下末梢神経ブロックを併用した麻酔が増え、硬膜外麻酔が減少している。時代と共に麻酔法も確実に変遷している (表1、2参照)。

放射線撮影装置を併設したハイブリッド手術室が病院1階に新設され、2020年6月から稼働を始めたことが、今年度の特筆すべきこととして挙げられる。胸部・腹部大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術を中心に活用しており、これらの手術が従来よりもスムーズに施行できるようになった。また、局所麻酔の手術の一部を状況に応じてハイブリッド室に配備することで、手術室全体の運用の効率化にも寄与している。今後の手術室全体としてのさらなる効率化と症例数の増加にも役立てたい。さらに、部屋が空いている時は、適宜カテ室管理の症例に対して部屋を貸し出して有効利用している (表3参照)。

麻酔科スタッフの変更はなく、高齢化が著しい。山口大学より週に数回の応援を得ながら、乗り切ることができたが、どこの組織でも世代交代は難しい問題である。

臨床研修医の多くが麻酔科をローテートしてくれた (上記参照)。当院麻酔科は担当する症例も多く、短期間で色々な経験を積むことが出来る。そして、手技のみならず、麻酔学の理論的背景も十分に教えられるように工夫して教育することが今後の課題である。

また、術後鎮痛への関与など周術期を意識した診療の展開もしてみたい。若くて常識のある麻酔科医の新規参入を求める。

表1. 2020年度 診療科別症例数(麻酔科管理以外を含む)

診療科	整形	外科	婦人	泌尿	形成	心外	耳鼻	眼	腎内	歯科	他	総計
症例数	1212	709	640	357	269	257	101	93	76	44	12	3770

表2. 2020年度 麻酔法別症例数

麻酔法	全麻	全麻+硬麻等	硬麻	硬麻+脊麻	脊麻	伝達麻酔	静脈麻酔等	総計
症例数	817	1576	5	95	377	238	99	3207

表3. 2020年度 ハイブリッド手術室稼働状況(2020年6月～)

麻酔法	心外	腎内	外科	総計	(心外: カテ室管理)	(循内: カテ室管理)	(カテ室管理 総計)
症例数	85	8	2	95	(42)	(36)	(78)